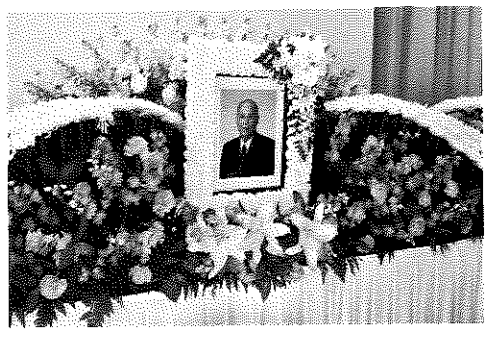


塩田前副理事長 お別れの会

事務局長 山越 孝雄

塩田前副理事長には、令和元年8月24日(土)八王子市の第二青陽園に入所中のところご逝去(享年94)されました。



塩田前副理事長は、自治省、防衛庁及び防衛施設庁などに勤務され、わが国の戦後の復興・繁栄と安全保障に多大なご功績を残されました。その後の偕行社副理事長時代には、長きに亘り元幹部自衛官の加入促進活動の中心となって活躍され、偕行社の自衛隊出身

者への引き継ぎに尽力されました。偕行社は、そのご功績を讃えるとともにご逝去を悼み、令和元年11月17日(日)靖國神社境内の靖國會館「偕行の間」において、志摩会長が主催者となり、お別れの会を盛大かつ厳粛に執り行いました。

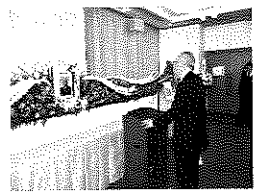
お別れの会には、ご遺族の長浜秀策様と長浜久美様(塩田前副理事長の御長女御夫妻)のご臨席のもと、塩田前副理事長の広島陸軍幼年学校や陸軍士官学校の同期生を始め、自治省、防衛庁及び防衛施設庁などの職場の後輩、偕行社の陸軍関係者や元幹部自衛官の会員など120名の方々が列席されました。



お別れの会では、黙祷、経歴紹介に

引き続き、陸軍士官学校及び広島陸軍幼年学校の同期生並びに防衛大学校卒業生がそれぞれ祭壇の前に進み、「広島陸軍幼年学校校歌」、「陸軍士官学校校歌」、塩田前副理事長が大好きだった「防衛大学校学生歌」、「広島カープ応援歌」を献奏しました。

志摩会長のお別れの詞 接ぎ木の成功に感謝



塩田さん。後輩でありながら、こう言う呼び方を許して下さい。

塩田さん、貴方と最後にお会いしたのは、昨年の12月24日でした。それから僅か8カ月でお亡くなりになるとは、今でも信じられません。あの日の貴方は、車椅子ではありませんでしたが、血色も良く握手された手も力強く感じられました。

私が塩田さんから偕行社への入会を勧められたのは、丁度10年前でした。その後の10年間は私にとりかけがえのないものでした。当時、会員の殆どが旧陸軍将校という偕行社の中に、落下

傘降下の様にして飛び降りてきた私を、塩田さんは副理事長として長年に亘り守り育てて下さいました。本当に有難う御座いました。

偕行社に入った私が驚いたのは、2階に軍歌を歌うサロンがある事でした。夕方、塩田さんの後についてサロンの扉を開けたとき、2階全部が軍歌広場になっており、私は異文化の世界に入り込んだ気がしました。その後、軍歌に殆ど縁のなかった私にも、何か聞き覚えのある歌が聞こえてきました。広島カープの応援歌でした。私は、塩田さんから色んな軍歌を教わりましたが、軍歌「要塞砲兵」が一番好きになりました。塩田さんとサロンでよく一緒に歌いました。いつの間にか私も、異文化の世界にどっぷり浸かっていました。

当時、偕行社の財務状況は芳しくなく、軍歌サロンの2階が重荷になってきました。偕行社の縮小に際し、サロンの続行の可否が議論されるようになりました。この時塩田さんは、私に「サロンは偕行社の風物詩なんだよね」と呟かれました。サロンの機能を残したため、スリム化の荒行も会員の賛同を得て、無事に乗り切る事が出来ました。塩田さんの呟きのおかげです。

私が執行部に入ることが決まりました。その当時、周囲の人の中から元陸上自衛隊幹部に引き継ぐのは「木に竹を接ぐ

ようなものだ」と揶揄する声がありました。塩田さんが一番つらい時期だったと思います。しかし、今から見ると昔話のようなものです。塩田さんが元幹部自衛官の方を向き、私が先輩会員に軸足を置き、借行社は上手く機能していきましました。

塩田さん、貴方は残った人生の仕事として借行社を元陸上自衛隊幹部に引き継いで貰う事に打ち込んでこられた、古い木から新しい木への接ぎ木は、見事に功を奏し、引き継がれております。ご安心下さい。また、後輩として感謝しております。さようなら塩田さん。

令和元年11月17日

公益財団法人借行社長

志摩 篤

続いて陸軍士官学校五十九期の荒木盛雄様が、同期生を代表してお別れの詞を奉読しました。

荒木盛雄様のお別れの詞

塩田章さん、貴兄と知り合ったのは昭和19年10月、陸軍士官学校入校、船舶兵の士官候補生として、用品の船舶練習部でありました。そこ

では同じ区隊で、身長順でも肩を並べ、雪の瀬戸内海の舟艇機動などを共に致しました。

更に貴兄との因縁は、大正14年8月17日、同年同月同日にこの世に生を享けていたことです。これを知ったのは戦後貴兄が防衛局長で、我々を観艦式に招待してくれ、横須賀に向かう車の中でした。しかも何と同乗の陸士54期吾等の船舶小原盟区隊長も同じ月日の生れで奇遇に驚いたものでした。

戦後貴兄は自治省に入省、自治省と東京都庁の陸軍幼年学校出身者の会の「KD会」を作り、都立広尾病院勤務の私もゴルフや宴会などを何度も共に致しましたことは忘れ得ません。

また貴兄はプロ野球広島カープの熱狂的なファンである事は知る人ぞ知る所、広島が初めての優勝の時は自治省などの幹部の方を築地の料亭に招待してお祝いをしたと語っておられました。

趣味の囲碁、麻雀はプロ級。囲碁は女流棋士で奇しくも一昨日に亡くなられた小川誠子六段とも、烏鷲を戦わせた仲と聞いております。

麻雀は貴兄の自宅に何度も招かれて、ご家族の歓待、酒やワインなどのお返しを受けた後、麻雀ではたつぷりそ

長年借行社の副理事長として、防衛庁の先輩の立場から、防衛庁の退職者

の借行社入会を勧める先頭に立つておられたようで、その急逝は借行社にとつても深く惜しまれます。

今年の8月の誕生日にお電話をすべく思いながら出来ず、気にしておりました所、その数日後に訃報に接し愕然と致しました。この世のはかなさを思う事切なるものがあります。生前のご厚誼に深く感謝し、泉下の霊のご冥福をお祈り致します。

同日に生れたる兄や虎落笛

合掌

令和元年11月17日

陸士59期2/1船舶 荒木盛雄

引き続き、広島陸軍幼年学校四十三期生である妻鹿嘉平様が、同期生を代表してお別れの詞を奉読しました。

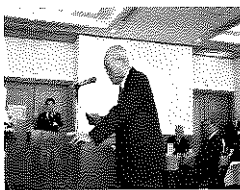
妻鹿嘉平様のお別れの詞

塩田君！ 広幼43期のメガです。君との最初の出会いは昭和14年4月

広幼入校式の時でした。

今から80年前のことです。今日は

広幼同期の平川太郎君と小野正明君も同席しています。君は広幼では健康問題で1年延期さ



このご功績は君の在官時代のものもろのご功績に比べて優るとも劣らぬものと思います。これを為し得たのは、戦前戦後の防衛組織の実体を身を以つて知る君の存在が大きかったものと思

います。そして又、私が思うには君の身に生じた1年のズレの為せる業は天の神様の思し召しかと思われる次第です。

君のかつての著作『会者定離』の示すように今はこの世でのお別れの時となりました。どうか安らかにやすみ下さい。そしてあの世で又、会えることを念じつつお別れのご挨拶とします



令和元年11月17日

広幼43期 妻鹿 嘉平

塩田前副理事長のご経歴

大正14年8月 山口県和木町にて出生

昭和18年4月 広島陸軍幼年学校卒業

(第44期)

19年10月 陸軍予科士官学校卒業

(第59期)

19年10月 陸軍士官学校入校

(第59期)

20年8月 復員

27年3月 東京大学法学部卒業

27年4月 自治省(現総務省)入

省

43年6月 小笠原総合事務所長

46年7月 熊本県庁総務部長

48年8月 自治省官房総務課長

53年11月 防衛庁長官官房長

55年6月 防衛庁防衛局長

57年7月 防衛施設庁長官

59年7月 内閣国防会議事務局長

61年6月 退官

61年9月 全国町村会事務総長

平成5年9月 防衛施設周辺整備協会
会長

11年1月 財団法人偕行社理事

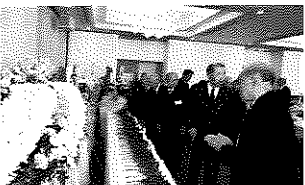
17年1月 財団法人偕行社副会長

23年2月 公益財団法人偕行社
副理事長

30年2月 退任

令和元年8月 逝去(94歳)

お別れの詞に引き続き、120名に及ぶ参列者が一人一人一本ずつ祭壇に白菊の花をお供えして、塩田前副理事長のご功績を讃えるとともに感謝しつつ、哀悼の誠を捧げ、お別れの会を終了した。



その後、偕行社
森理事長の参列者
に対する謝辞に引
き続き、広島陸軍
幼年学校43期で同
期生の小野正明様
の献杯を皮切りに、昔話などで懇
談して塩田前副理
事長を偲びつつお
清めの会食を実施
した。

最後に、陸軍士
官学校59期同期の
野俣明様の中締め
により、会食を終
了し列席者のお帰
りをお見送りし
て、塩田前副理事
長のお別れの会を
終了した。